

安全データシート

飼料添加物

炭酸マンガン

飼料品質改善協議会

プレミックス研究会

連絡先: 巻末のプレミックス研究会会員一覧を参照のこと。

作成年月日: 2023年12月13日


1. 化学品名及び会社情報

化学品の名称	炭酸マンガン
供給者の会社名称	日本ニュートリション株式会社
住所及び電話番号	東京都港区南青山一丁目1番1号 TEL:03-5771-7890
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない

健康有害性	鈍性化爆発物	分類できない	
	急性毒性（経口）	分類できない	
	急性毒性（経皮）	分類できない	
	急性毒性（吸入）	区分に該当しない	
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない	
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない	
	呼吸器感作性	分類できない	
	皮膚感作性	分類できない	
	生殖細胞変異原性	分類できない	
	発がん性	分類できない	
	生殖毒性	分類できない	
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない	
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器）	
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器、神経系）	
	誤えん有害性	分類できない	
	環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
		水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない
オゾン層への有害性		分類できない	
GHS ラベル要素			
絵表示またはシンボル			
注意喚起語	危険		
危険有害性情報	臓器（呼吸器）の障害 長期または反復暴露による臓器（呼吸器、神経系）の障害		
注意書き	【安全対策】 防じんマスクを着用する。 保護眼鏡の着用が好ましい。 保護手袋の着用が好ましい。 保護衣の着用が好ましい。 有害であるので取り扱いには注意する。 眼、皮膚、衣服への接触を避ける。 粉じんの吸入を避ける。 長時間または反復の暴露を避ける。		

【応急措置】

眼に入った場合、十分水で洗い流す。
 皮膚に付着した場合、十分水で洗い流す。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、安静を保つ。頭痛などの痛みがあれば、ただちに医師の診断を受ける。
 飲み込んだ場合は、口を水で洗浄し、できるだけ吐き出させ、医師の診断を受ける。

【保管】

完全密封。粉じんの発生を防ぐこと。

【廃棄】

再飛散、地下浸透がないなどの廃棄物の処理及び清掃に関する法律の埋立ての技術基準を守り埋め立てる。多量の場合は回収して再利用する。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	炭酸マンガン
慣用名又は別名	炭酸マンガン
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No. 598-62-9
成分及び濃度又は濃度範囲	MnCO ₃ ·nH ₂ O (Mn : 42.5~45.0%、MnCO ₃ : 89%~94%)
官報公示整理番号	1-156 (化審法・安衛法)

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動し、安静を保つ。頭痛などの痛みがあれば、ただちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	十分水で洗い流す。
眼に入った場合	十分水で洗い流す。
飲み込んだ場合	口を水で洗浄し、飲み込んだ場合はできるだけ吐き出させ、医師の診断を受ける
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし。

5. 火災時の措置

- | | |
|-----------------------|-------|
| 適切な消火剤 | 情報なし。 |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし。 |
| 特有の消火方法 | 不燃 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 情報なし。 |
6. 漏出時の措置
- | | |
|-----------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 情報なし。 |
| 環境に対する注意事項 | 可溶性マンガンに変化している時は、排出基準 (10 mL/L) を守る。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 掃き寄せて回収する。少量の場合は水で十分希釈して排水する。回収時、再飛散しないよう注意し、作業者は防じんマスクを着用する。 |
7. 取扱い及び保管上の注意
- | | |
|-----------|--|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | 有害であるので取り扱いには注意する。
眼、皮膚、衣服への接触を避ける。 |
| 安全取扱注意事項 | 粉じんの吸入を避ける。
長時間または反復の暴露を避ける。 |
| 保管 | |
| 安全な保管条件 | 完全密封。粉じんの発生を防ぐこと。 |
| 安全な容器包装材料 | 情報なし。 |
8. ばく露防止及び保護措置
- | | |
|---------------------|---|
| 管理濃度 | Mn として 1 mg/m ³ |
| 許容濃度 (暴露限界値、生物学的指標) | ACGIH (1998 年度版) : TLV=TWA : 0.2 mg/m ³ (Mn として)
日本産業衛生学会 勧告値 (1998 年度版) : 0.3 mg/m ³ (Mn として、上限値) |
| 設備対策 | 局所集じん装置を取り付け、作業環境を良好に維持する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | 防じんマスクを着用する。 |

手の保護具	保護手袋：着用が好ましい
眼、顔面の保護具	保護眼鏡：着用が好ましい
皮膚及び身体の保護具	保護衣：着用が好ましい
特別な注意事項	情報なし。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	粉末
色	淡黄色
臭い	なし
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に難溶 (65ppm、25℃)
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ	空気中で加熱すると 100℃以下で分解し CO ₂ を放出。加熱により分解する。100℃以上より、CO ₂ を放ち MnO となり、更に 300℃で空気酸化され MnO ₂ となる。

10. 安定性及び反応性

反応性	100℃以上より、CO ₂ を放ち MnO となり、更に 300℃で空気酸化され MnO ₂ となる。それ以上の温度では還元され、
-----	---

	500℃で Mn_2O_3 、950℃で Mn_3O_4 、1000℃以上で MnO となる。
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	酸に溶けて CO_2 を放出し、その酸の塩溶液になる。
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	データなし
経皮	データなし
吸入	データなし
(蒸気・粉じん・ミスト)	
皮膚腐食性／刺激性	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	頭痛などの症状がある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	中枢神経障害がある。はじめは頭痛、易疲労、不眠、関節や筋の痛み、痙攣などがあり、次いで精神的障害をもたらす。また、粉じん吸入による呼吸器障害、いわゆるマンガン肺炎も報告されている。
誤えん有害性	データなし
12. 環境影響情報	
生態毒性	水生環境急性有害性：分類できない
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	水生環境慢性有害性：分類できない
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物）， 再飛散、地下浸透がないなどの廃棄物の処理及び清掃に関する法律の埋立ての技術基準を守り埋め立てる。多量の場合は
 当該化学品が付着して 回収して再利用する。
 いる汚染容器及び包装
 の安全で、かつ、環境上
 望ましい廃棄、又はリサ
 イクルに関する情報

14. 輸送上の注意

国連番号 非該当
 輸送又は輸送手段に関 乱袋、発じんに注意する。
 する特別の安全対策
 国内規制がある場合の 非該当
 規制情報

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質管理促進法 第一種指定化学物質 311号 マンガン及びその化合物
 (PRTR法)
 労働安全衛生法 第57条名称などを表示すべき対象物質（表示対象物）
 毒物及び劇物取締法 非該当
 飼料安全法 飼料添加物（炭酸マンガン）

16. その他の情報

この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にして、飼料品質改善協議会 プレミックス研究会が作成したものです。すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定などにご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質などの数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

<引用文献>

- 「産業中毒便覧」後藤 編/医歯薬出版
- (独) 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果 炭酸マンガ(Ⅱ) ID496
- 神奈川県環境科学センター 個別物質全項目表示 炭酸マンガ

<改訂履歴>

版	日付	内容
初版	2001年5月18日	—
第2版	2008年6月27日	GHS 対応
第3版	2016年2月19日	文言修正等
第4版	2021年12月20日	JIS 改正に合わせて改訂
第5版	2023年12月13日	労働安全衛生法改正に合わせて改訂